

ごあいさつ

日立グループは 2003 年度、計画を上回る業績を発表することが出来ました。ふりかえってみますと、昨年度は、新たな成長に向けた日立グループを育んだ年であったと思います。中期経営計画” i. e. HITACHI プラン II ” のスタート、事業ポートフォリオの再編成、委員会等設置会社への移行など、昨年度に実行した経営改革によって、新しい日立グループの姿が描けたと思います。しかし、今回の結果は、” i. e. HITACHI プラン II ” 達成という目標に向けた一通過点にしか過ぎません。ユビキタス時代の到来、市場のグローバル化など、ますます競争が激しくなりますが、こうした変化の時代こそ大きなチャンスと考え、さらなる成長に向けてグループ経営の深化に取り組んでまいります。

当グループは、情報通信システム、電子デバイス、電力・産業システム、デジタルメディア、高性能材料など広範な技術を有しており、この広範な分野での技術と知識を縦横無尽に駆使できる総合力が日立の強みであると考えます。当グループが有する技術を融合し、シナジーを発揮させることで、お客さまの「ベスト・ソリューション・パートナー」になりたいと考えております。

当グループでは、これまで株式会社日立製作所をはじめとする各上場会社において、アニュアルレポートや、有価証券報告書において財務情報を中心とする開示を行うとともに、事業戦略説明会などを定期的実施してまいりました。これらの機会を通じて「研究開発」や「知的財産（特許、ブランド）」についてもご説明してまいりましたが、このたび、これらをまとめてご報告させていただきたいと存じます。

本報告書では、お客さま、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとする当社のステークホルダーの皆様へ向けて、当グループの研究開発の考え方、組織を説明し、研究開発の成果である知的財産の状況とその活用の考え方を報告致します。本報告書を通じて当グループの研究開発及び知的財産を重視した取り組みを皆様にご理解頂き、皆様と共に新しい時代に一歩を踏み出したいと考えております。



2004 年 6 月
取締役 執行役社長

庄山 悦考